

市民と市長のタウンミーティング（要旨の報告）

日 時：令和8年2月1日（日） 15時30分～17時00分

場 所：渋谷学習センター304講習室

テ ー マ：財政健全化

参加人数：19人

開会挨拶、財政健全化ビジョンの概要説明後、参加者からの質疑に応答。

<質疑応答>

【参加者】

- ・身の丈を超えた市民サービスというのは、他の市と比べて高いサービスレベルを保っているということだと思います。
- ・大和市の産業は多くないが、狭い市域に多くのかたが暮らしている。
- ・多くのかたが暮らす理由は、高い市民サービスによるのではないか。
- ・身の丈を超えたという表現は、サービスを削減していくという意味なのか。
- ・身の丈を超えたサービスが具体的に何を指すのか。
- ・歳入増、支出削減についても具体的に教えてほしい。

【市長】

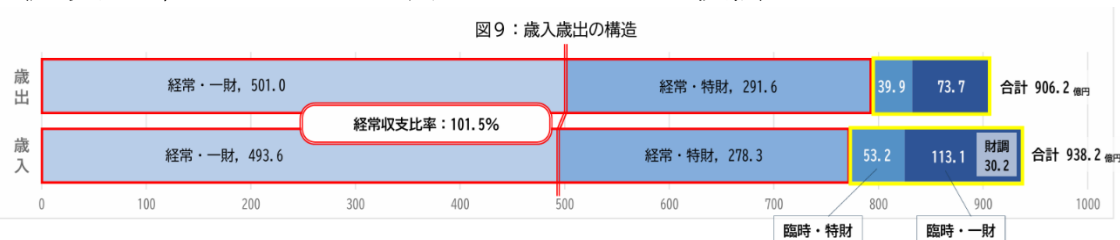
- ・身の丈を超えたサービスというのは、シリウス、ポラリス、やまと公園などの建設は、市民サービスの向上として評価されているが、これらにかかる維持費が社会情勢での物価上昇で人件費とともに委託費が増加しており、これに市の借金返済が加わって財政が苦しくなっている部分がある。
- ・また、大和市は子育て王国ということで、子育て施策にかかる経費が他市よりも抜きに出ている。
- ・働いている保護者を支えるためにはどうしてもこどもを預かる場所が必要だが、そこが他市よりも非常に多くなっている。
- ・保育園を増やしたことにより補助金が増えており、そういうところが他市よりも抜きん出ている。
- ・収入増については、大和市は東京や横浜のベッドタウンとして、住むことが中心になっており、子育て、教育、高齢者福祉、障害者福祉といったものに係るお金が多くなっている。
- ・神奈川県内で財政が豊かなのは厚木市で人口が22万人。大和市はもうすぐ25万人を超える勢いがあるが、厚木市は30年前から企業誘致に舵を切っており、今では財政が豊かになっている。
- ・市街化調整区域の固定資産税は低いが、企業誘致をすると固定資産税は増え、法人市民税も入ってくる。
- ・企業で働いている人は若い人だから福祉費も抑えられる。
- ・厚木市は企業誘致に舵を切り、大和市は住む方に舵を切っているが、どちらがよいとは言えない。
- ・大和市は、工業専用地域もなく、工業地域や準工業地域も非常に少ないが、今の時代はITとかAIとか大きな工場ではなくて騒音振動悪臭もない、小

さな土地でも税金が上げられる企業形態になっているので、大和市にもチャンスはあると思っている。

- ・まだ空いている土地を有効活用して税金を上げていきたいと考えている。
- ・数字などは担当から説明する。

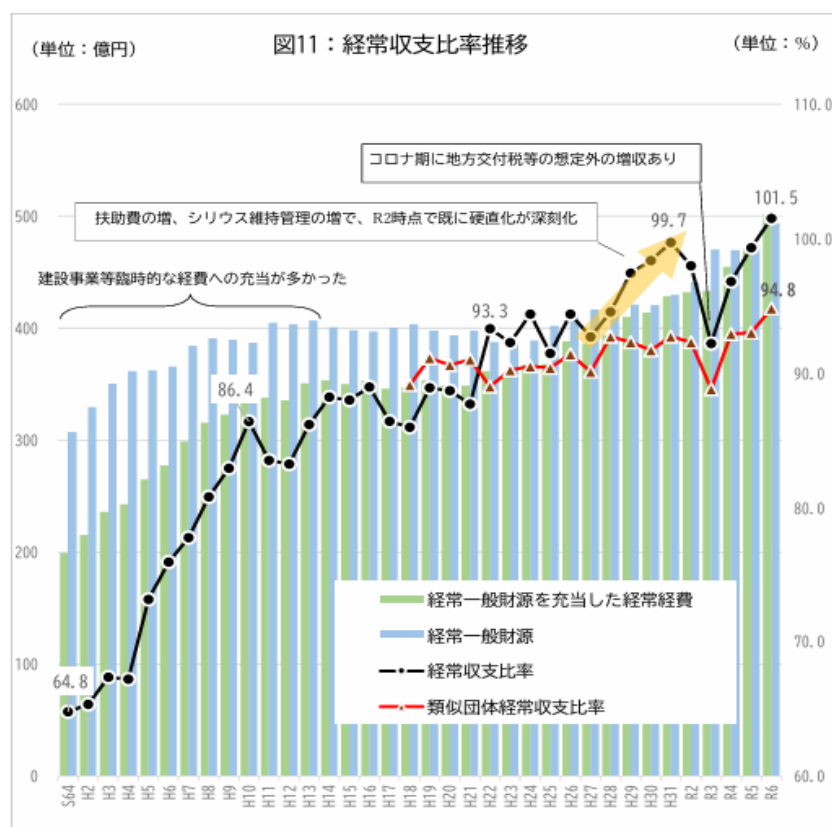
【財政健全化プロジェクトリーダー】

(財政健全化ビジョンP8の図9をスクリーンに投影)



- ・この図の上側が出て行ったお金、下側が入ってきたお金を表しており、令和6年度の決算は収入の方が多く赤字ではなかったことを示している。
- ・真ん中にある経常収支比率が101.5%というのは、入ってくるお金493.6億円に対して、出ていくお金501億円の方が多くなっていることを表している。
- ・これは毎年、毎月出ていくお金、経常的にかかるお金を意味しており、この部分を“身の丈を超えた”と表現している。

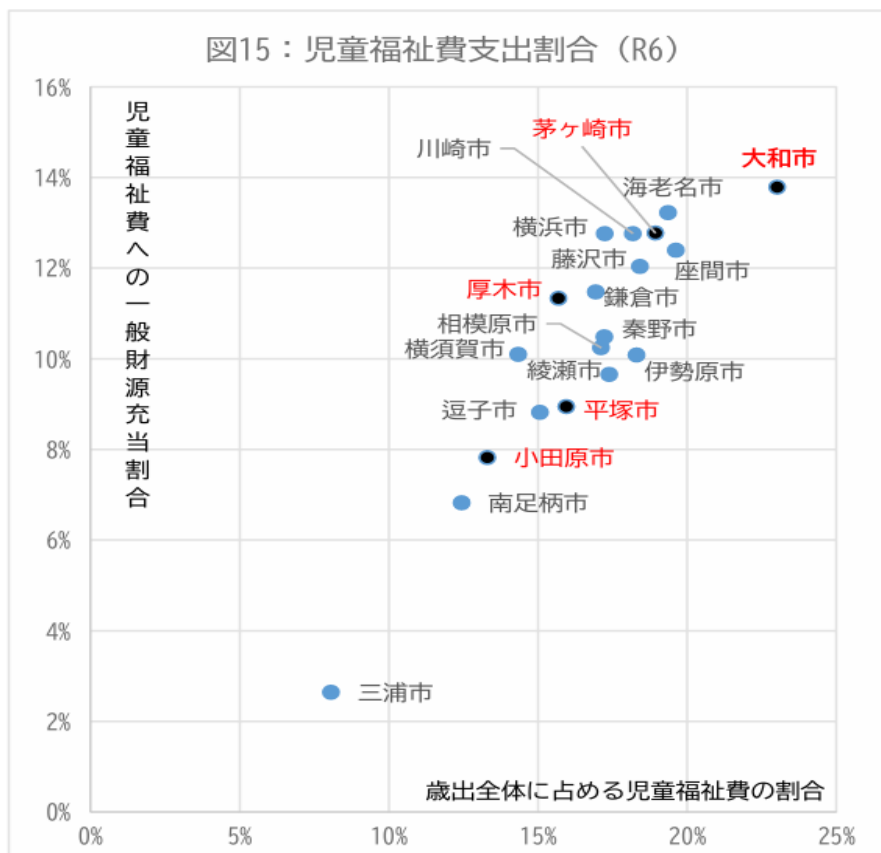
(財政健全化ビジョンP12の図11をスクリーンに投影)



- ・この点について他市と比較すると、大和市の経常収支比率が101.5%であるのに対し、類似団体(※)の経常収支比率は94.8%となっており、神奈川県内の市で経常収支比率が100%を超えているのは大和市だけとなっている。

※ 主に人口と産業構造の類似性で全国の市町村を複数の類型に分類し、同じ類型に属する団体を類似団体と呼びます。神奈川県内における本市と同じ類型の類似団体は、人口が多い順に、平塚市、茅ヶ崎市、厚木市、小田原市となります。

- ・ (財政健全化ビジョン P 1 7 の図 1 5 をスクリーンに投影)



- ・ 身の丈を超えた サービスで特徴的なのは、この図の右上、大和市だけポツンと離れているのがわかる。
- ・ 横軸は市の支出全体に占める児童福祉費の割合を示したもので、神奈川県内の市で一番多いことがわかる。
- ・ 縦軸は自由に使えるお金（一般財源）を充当する割合を示しており、ここも一番多いことを表している。
- ・ 子育てに関しては強みでもあるが、他市と比較するとこのような状況となっている。

【参加者】

- ・ 児童福祉費の支出の中で、何か突出して多い支出はあるのか。他市と比べて何がが多いのか。

【市長】

- ・ 前市長時代に待機児童ゼロを絶対的なものとした指示が出ており、保育園は今から10年前は約30園で30億円くらいだったが、今は92園で109億円と3倍以上になっている。
- ・ 働く保護者にしたら子どもを預ける場所が必要であるが、待機児童ゼロを絶対にキープしなければということで保育園を増やし続けてきた。

- ・これが良いか悪いかの判断は難しいところである。
- ・保育園協会、幼稚園協会の両方から私が直接話を聞いたところ、今はもう定員割れしているところがあるので、保育園を作り過ぎなのではないかと。
- ・前市長のトップダウンもあり、待機児童ゼロが絶対だということに囚われ過ぎてしまっていたので、私は見直ししようと思っている。
- ・現場の声を聴いて、待機児童はゼロじゃなくてもいいじゃないかと。
- ・R 7年度の待機児童は6人か7人で、待機児童ゼロには囚われない。
- ・マッチングをして定員割れを解消していきたい。
- ・幼稚園は0歳から2歳児は預かれないことになっていたが、幼稚園の理解で2歳児を預かってくれる状況が増えている。
- ・幼保一体ということでこども園への移行も大和市としては望んでいる。

【参加者】

- ・市民税などの未収納額はどのくらいあるのか。

【財政健全化プロジェクトリーダー】

- ・令和6年度決算の市税の収納率 97.1% で収入未済額は10.6億円である。

【参加者】

- ・事情があつて払えない人がいること、大変な中でも払う努力をしている人がいるのは理解している。
- ・払えるのに払わない人がいることは全国的な問題であり、こういう人を見過ごしたら財政が悪化してしまうのではないかと。

【市長】

- ・市税の収入未済に対しては収納課が職員一丸となって頑張っている。
- ・私としても収入未済額から1%でも多く払ってもらいたいと思っている。
- ・いろんな家庭環境、社会状況とかあると思うが、本当に苦しんでいる人に対しては納税を猶予するなど助けていく。
- ・払えるのに払わない滞納者に対しては職員一丸となって頑張っているので、引き続きしっかりと対応していく。

【参加】

- ・先週「大和駅周辺のこれからを考えるみんなで会議」に参加した。
- ・その場でも出たのは、全国的に見たときに、大和市ってどんなところだろうとなってもイメージが浮かばないことである。
- ・スタートアップ企業を誘致するなど、チャンスを掴める場として、大和市が位置づけて、仙台市にアイリスオーヤマがあるように、大和市と言えはこの企業というものが育つとよいと考えている。
- ・企業の持つイメージによって大和市の知名度が上がり、大和市内で働く人も増え、それに伴う税収の増加も見込めると思う。
- ・このようなことを市としても前向きに取り組んでいくべきであると、「大和駅周辺のこれからを考えるみんなで会議」でも意見が出ていた。
- ・市長の将来都市像を伺いたい。

- ・インターネットで調べた情報ではあるが、シリウスの年間維持費が10億円かかっている、コミュニティバスは2億円の赤字を出している。
- ・これだけで12億円、ゼロにはできないと思うが、半減できれば使えるお金が増えるわけである。
- ・例えばコミュニティバスの見直し、交通弱者を生むのはよくないので廃止は難しいが、会社で言えば企業努力の部分で予算を削減していくべきと考えるが、市長の見解を伺いたい。

【市長】

- ・シリウス、コミュニティバスの経費をもっと削ればいいのかというご意見もあるが、シリウスやコミュニティバスの市民サービスや付加価値は、市民が受ける恩恵も大きい。
- ・そういった中で見直しについて職員も懸命にやっている。
- ・シリウス、ポラリス、各学習センターを全部含めてやまとみらいの指定管理額が約10.7億円。
- ・この指定管理は5年の契約期間で、次期の指定管理を更新したが、金額は据え置きにした。
- ・本来なら人件費が上がっているのに、約3億円上がるはずだったが、それを徹底的に見直しして3億円上げずに5年前の指定管理と同じ金額で据え置きにした。そういう努力をしているところである。
- ・企業誘致に関しての夢のビジョンについては、大和市には大和市の形の企業誘致ができると思う。
- ・中央林間は始発駅なので、東京で黒字の会社に大和に来てもらうことも可能。
- ・創業支援をして未来に伸びる企業を誘致していく。
- ・大和市が創業支援をしていくことが大事だと思っている。
- ・大和市が選ばれるまち、魅力あるまち、楽しく元気のあるまちであると思わせる取組をしていきたい。
- ・花博がある瀬谷と一緒に動いて発展できるように、そういったことを目指しており、道路とか街づくりを次の世代に活かせるように、選ばれるまちにしていきたい。

【参加者】

- ・経常収支比率101.5%について、約9億円の赤字でよいか確認したい。
- ・この状況について、議会でも議論されていると思うが、財政についてどの程度話し合われていたのか、話せる範囲で構わないので教えてほしい。

【市長】

- ・経常収支比率101.5%、1.5%超えているので、出ていくお金が約9億円多くなっている。
- ・市議会における財政についての話し合いは、私が市議会議員の時代からされていた。
- ・当時から財政が苦しくなる予測はあったので、私が市長になった後、R6年度の事業見直しで2.5億円を歳出削減、国保税率の引き上げで10.6億円、下水道使用料の引き上げで6.9億円増加、さらにR7年度も事業見直

しをし、これまで合計で約28億円を縮減してきた。

- ・これだけ縮減しても、社会情勢等により経常収支比率が100%を超えた。
- ・少しでも市民サービスを見直して財政を将来的に継続できるようにしていきたいと思っている。

【参加者】

- ・歳入増に向けた取組強化について、ビジョンには主なものとして3つ（①市税等の収入未済額の縮減、②受益者負担（公共施設の使用料等）の適正化方針運用の厳格化、③寄附（ふるさと納税ほか）、ネーミングライツ、有料広告など）が挙げられている。
- ・先ほど市長からあったIT関係などの企業誘致が実現すると歳入の増加が期待できると思うので、もっと大々的にやったほうがよいのではないか。
- ・財政健全化ビジョンの歳入増に向けた取組強化に、なぜ企業誘致が挙げられていないのか。
- ・ビルド&スクラップの中に含まれているのであればそれでよい。

【市長】

- ・歳入増の取組の主なものとして挙げたのは、わかりやすい取組としてふるさと納税を財政健全化ビジョンに記述している。
- ・ふるさと納税は約9億円から10億円の流出となっている。
- ・流出額の75%が戻ってくるので実質的には約3億円の赤字である。
- ・しかしながら、財政が苦しい現状としてはその3億円でも痛いので、ネーミングライツも含め、すぐに手を打てるところは実施している。
- ・今まではハコモノ、人に投資してきたが、今後は、道路やまちづくりに関するビジョンを出して企業誘致をしていきたい。
- ・道路を整備することによって、調整区域の土地が事業用地になったり市民が住む住宅になったりするので、そういったところから固定資産税の税収を上げていく。大和市の魅力として道路、まちづくりをやって発展していく。
- ・海老名市や綾瀬市が伸びているのは、綾瀬IC、海老名ICができたことにより物流と人流が生まれ経済が発展しているからである。
- ・将来的に大和市にもスマートICが作れたらと思っている。
- ・企業誘致は時間がかかるため、ビジョンには入れていないが、様々な可能性を視野に入れて考えていきたい。

<グループワーク（対話）>

- ・限られた時間で有意義な意見交換するため、以下の6点をお願いした。
 - ①「話す」こと以上に「聴く」を大切にする。
 - ②“否定せず”に耳を澄ませる。
 - ③自分だけが正しいと思わず断定しない。
 - ④付箋への落書きで意見のメモを残す。
 - ⑤話したくないかたは、聴く中心でも構わない。
 - ⑥特定の誰かが話し過ぎてしまって、他のかたが話せないときは、話し手を変わっていただく場合がある。

- ・ A～Dの4グループで、自己紹介（大和市で好きな場所、タウンミーティングに参加した理由）後、財政健全化ビジョンの説明、6つの願いを踏まえて意見交換。
- ・ 各グループで意見をまとめ、以下の発表があった。

＜グループ意見発表＞

【Aグループ】

- ・ 市がやっているサービスは、生活に欠かすことのできない大事なもののばかりである。
- ・ 財政が厳しいからといって縮減するにしても、どこを縮減するのか、その考え方が明確になっていないといけない。
- ・ 同じ市内でも地域によって差があり、住宅建設が進んでいる場所があるからといって、そこを規制していくと若者が集まる場所が減ってしまう可能性もある。
- ・ 市が使っているお金、費用を見える化して、みんながそれをわかった上で納得して取り組んでいけるとよいのではないか。

【市長】

- ・ 今、ビルド&スクラップをどのようにして実施していくかを考えており、いかにその事業が必要なのか、今の時代に合っているのかを検証し、必要なところに財源を使っていきたい。
- ・ コミュニティバスは来年度に向けて、一つの例をいうと、朝夕などの乗車数が多い時間帯は増便し、乗車数の少ない時間帯は少なくするなど、見直しを図っていく。
- ・ 減りにくい支出と増えにくい収入の挟み撃ちに合っているから、いろいろなことを見直してより市民に影響が少なく、少しでも使いやすくなるようなことを考えていきたい。

【Cグループ】

- ・ 羽田空港が飽和状態になっているので、長期的な視点で厚木基地の民間利用を進めることにより、人の流れ、産業が大和市に集まるのではないか。
- ・ 企業誘致について、大和市の土地利用、人口増減、土地ごとに人口増減があるけど、そういうことを見ながら、市長にはどんどん営業に行ってほしい。
- ・ 市の固定費はなかなか削減できないので、それ以外のところを削減するために、行政改革ということではなくても何かできることはがんばってほしい。
- ・ 市議会議員について、大和市の規模からして、妥当かどうかわからないが、もうちょっと少なくてもいいのではないか。

【市長】

- ・ 厚木基地の利活用は私も考えていきたい。
- ・ 大前提は基地の返還と静かな空である。
- ・ それができないのであれば、基地の利活用として、軍用機よりも静かな民間機の就航を実現させたい。
- ・ 民間機が就航すれば、人とモノを運ぶので経済が動くようになる。

- ・大和市の税収を上げるためには、厚木基地の利活用も必要だと思うので、市民の声を活かしていきたい。
- ・企業誘致の営業については、私が積極的に行動していく。
- ・現在、様々な企業を訪問して社長に会っている。
- ・ここに来て、工場を建て直す企業が増えており、利便性を考えて大和市に出したいという打診をいろいろなところで受けている。
- ・それをうまくマッチングさせて、企業誘致するために奨励金を出して、できるような形をしっかりとアンテナを張っていく。
- ・私が営業マンになってがんばっていきたい。
- ・市の職員については、初めて聞かたもいらっしゃるかもしれないが、非常に少ない人数で厳しい状況である。
- ・大和市の人口は24.5万人で、人口規模が近い茅ヶ崎市と比較すると、茅ヶ崎市の職員は約1250人、大和市は約1030人で、茅ヶ崎市よりも150から200人ほど職員が少ない状態でやっている。
- ・何で職員が少ないかという、これまで職員数を減らして浮いたお金で市民サービスを手厚くしてきた。
- ・これを良いと思うか悪いと思うかは人によるが、職員は少ない中でもがんばっている。
- ・しかし、大和市は人口が増えているので、災害時などを考えると職員数の適正化は必要で、ある程度増やさないといけない。
- ・市民サービスをカットして職員を増やすのは何でだという考え方もあるかもしれないので、市民サービスを良くするために職員を増やさないといけないということを丁寧に説明していきたい。

【Bグループ】

- ・市民負担について、こども医療費は所得のある人からはその所得に見合った負担をしてもらうべき。
- ・タウンミーティングの場での意見は本当に市政に反映されるのか。しっかり吸い上げて反映させてほしい。
- ・市の職員の人件費が安いというのは大問題である。
- ・加入率が低い自治会への補助金にメスを入れるべきではないか。
- ・元気な高齢者には市の仕事を担ってもらってもよいのではないか。
- ・委託の在り方、委託の人の働き方の問題。
- ・財政がこうなる前に、黄色信号の段階でシグナルを出しておくべきであった。

【市長】

- ・こども医療費については、私が市長になる前は15歳までで所得制限があったが、市長になった年に所得制限を撤廃して18歳までに拡大した。
- ・これにより負担が約4～5億円増えている。
- ・所得に見合った負担については、拡充したものを元に戻すのはなかなか難しいところがあるが、ご意見として受け止め、対応の可否を検討させていただきたい。
- ・医療費に関連して、全国的に見ても公立病院は赤字が当たり前の状況である。

- ・大和市立病院は外来患者がすごく多くて混んでいるので、黒字になっていると思うかもしれないが、実際は赤字である。
- ・医療費の診療報酬の仕組みに課題があるのではないかと。
- ・今回、国が医療費を全体で2.3%上げたことは評価できるが、外来をやってもやっても赤字という診療報酬体系は見直してほしいと考えている。
- ・入院、検査、手術がないと黒字にならない状況は、どこの公立病院も頭を抱えているところである。

【Dグループ】

- ・受益者負担は必要である。
- ・特に市外のかたが多く利用する、シリウスやゆとりの森などで利用料を取る。
- ・全市民が痛みを分かち合うという意味で、ごみ袋の値段を上げた方がよいのではないか。
- ・それだけではまだ足りないということで、シリウスやポラリスといった維持管理経費がかかるところは、民間企業に売却をして市の予算をかけない方がいいのではないか。
- ・安定した法人市民税の収入を確保するため、企業誘致も必要である。
- ・大和市の市内の公園が多すぎるので、公園の数をもう少し減らして、維持管理経費を削減すればよいのではないか。
- ・大和市は人口も多く、外国籍のかたも住んでおり、ごみの分別などがきちっとできていない地域もあるなど、地域コミュニティの点でなかなか難しいところがある。
- ・こういったところが治安の乱れにつながる可能性もあるので、地域の治安や地域コミュニティといったところにお金をかけてほしい。

【市長】

- ・受益者負担について、こういった声があがるのは理解しており、そういった声も含め、判断の材料とさせていただきます。
- ・まったく使ったことのない施設を市民が負担しているのに、何で他市と比べて値段が安いんだという声も届いている。
- ・受益者負担については、しっかり見直して適正になるよう考えていきたい。
- ・ごみ袋の価格については、以前（平成21年）に価格を20%値下げし、今もその価格が続いている。
- ・神奈川県下でごみ袋の価格を下げた市は他にないのだが、大和市はその当時、下げる判断がなされた。
- ・見直しに関しては、やはり市民の声を聴きながら考えていきたい。
- ・シリウス、ポラリスの売却は、そういった考え方もあるがなかなか…。
- ・そういったことも、市民の声を聴きながら判断をしていきたい、検討してまいると思っています。
- ・公園について、大和市は開発とともに発展してきており、一定規模以上の開発行為をする場合に公園を設置しないといけない（都市計画法に基づく義務

で、市条例で基準を定めている) ため多い。

- 開発行為の土地が近い場合、道を挟んで公園が二つ設置されることもある。
- 開発行為によって設置された公園が多く、それが足かせになって公園の維持管理経費も多くなっており、年間何億円もかかっている。
- 近くにある公園を一つにまとめて、遊具を増やしたり、子どもたちや子育てしているかたや高齢者のかたが憩える場として充実させてもよいと思う。
- 公園の統廃合ができれば、維持管理経費を縮減するだけでなく、市民が喜ぶ形に充実していきたいので、いただいた貴重な意見は、今後の参考にさせていただく。

以上